

第11回 地域商社協議会 式次第



2019年5月20日
ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局
農林水産省 経済産業省

場所：経済産業省 本館地下2階 講堂

- 13:30- ご挨拶
田川和幸（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長）
- 13:40- オープニングトーク
古田 秘馬（ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員長）
- 13:45- パネルディスカッション
スーパー公務員とスーパー民間プレイヤーをパネラーに、官民連携のヒントを探るディスカッション
・株式会社 VILLAGE INC（ヴィレッジインク）代表 橋村 和徳
・三豊市 政策部 産業政策課 副主任 倉本明佳
・一般社団法人離島百貨店 青山富寿生
（元：島根県海士町役場交流促進課 課長）

コーディネイター 山本 桂司 インターローカル パートナーズ 代表取締役
コメンテーター 古田 秘馬
- 休憩 —
- 14:15- 1st 少人数グループセッション
地域商社ケーススタディ①（20分）
グループ ディスカッション（35分）
- 15:20- 2nd 少人数グループセッション
地域商社ケーススタディ②（20分）
グループ ディスカッション（35分）
- ※少人数グループディスカッションは、同じ内容で2度行います。別紙参照。参加者の方は、1st と 2nd で違うセッションにご参加ください。
- 休憩 —
- 16:25- ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会 参加企業プレゼン
- 16:40- 政府関連の支援制度紹介
- 16:50- クロージングトーク（進行・コメント：実行委員長古田秘馬）
少人数セッションにおける議論と提案された解決策を紹介し、そのポイントをレビューする。
- 17:10 終了（17:30～ 懇親会）

《少人数グループセッション》



チーム（1）

地域商社 事例発表社 **香川県三豊市 うどんカンパニー**
三豊市 政策部 産業政策課 副主任 倉本明佳
瀬戸内うどんカンパニー株式会社 代表 北川 智博

三豊市は2017年度に、ふるさと名品オブザイヤー実行委員会のサポートプログラムを活用して、地域商社の新規立ち上げ事業を展開。「瀬戸内」と「うどん」という、全国区で認知されるキーワードを切り口にした地域商社の立ち上げにあたり、一般公募でチーフ・うどんオフィサーの公募を行い、北川氏が選ばれた。その後北川氏は、行政や地域住民との連携しながら、地域商社立ち上げすぐに「さぬきうどん英才教育キット」の商品開発を行い東京の百貨店などへ流通開始。現在はツーリズム事業を計画中。若く優秀な外モノが地域に入り、行政サポートで新たな地域商社を立ち上げている事例。

チーム（2）

地域商社 事例発表社 **富山県 富山県いきいき物産株式会社**
富山県総合デザインセンター 副主幹研究員 窪英明
富山県いきいき物産株式会社 幸のこわけ事業部 営業課長 長井昭仁

富山県と県内各市町村・県内民間企業の共同出資の第3セクターで、富山県内特産品の販売振興を通じて、県内特産品の全国的ブランド化を図るとともに、特産王国づくりのイメージアップ、レベルアップを図る地域商社。富山県を中心に活躍する女性がプロジェクトメンバーとなっている「越中富山 幸のこわけ」では、富山県内の良質な物産にデザイン視点から統一感を与え、富山の魅力を効果的に伝えるお土産ブランドにおける商品開発・販売を展開。北陸新幹線開業を機に、女性視点を活用した地域土産ブランドの成功事例となっている。

チーム（3）

地域商社 事例発表社 **栃木県 日光珈琲**
栃木市総合政策部 蔵の街課 重伝建係 副主幹兼係長 一条嘉之
有限会社 風間総合サービス 代表取締役 風間 教司

地域コーヒーブランド「日光珈琲」を手掛ける風間総合サービス。自身が開いた1軒のカフェを起点に、栃木県鹿沼市で空き家・空き店舗を活用した創業支援や観光振興に携わる。地域商社に必要な地域の核づくり、人づくりといった側面に加えて、「株式会社 城崎珈琲焙煎所」の立ち上げや運営に携わる他、カフェ、ゲストハウス、地域のプロデュースを行っている。現在は、栃木市、鹿沼市、日光市に5店舗のカフェを展開しながら、地域と連携した地域活性化を手がけている。

チーム（4）

地域商社 事例発表社 **兵庫県豊岡市（城崎温泉） 城崎スイーツ**
豊岡市 環境経済部 大交流課 課長 谷口雄彦
有限会社 ティーアンドエムズ 代表取締役 谷口 忠弘

農業出身の経験から、地元北近畿の魅力を世界に発信し、「農業をカッコよく」することをミッションに掲げ、行政や地元組合を巻き込んだ地域プロデュースに注力している。世界に農業の価値を発信できる地として城崎温泉を選び、環境創造型農業で生産した地元農産物を材料としてスイーツ事業の展開をはじめ、但馬牛まん専門店、カフェ等、を城崎温泉周辺に集中展開している。日光珈琲とのコラボレーションで、ローカル珈琲・城崎珈琲焙煎所を立ち上げをはじめ、ローカル鉄道の京都丹後鉄道「宮津駅」の丹鉄珈琲「114km café」の監修も行う。

チーム（5）

地域商社 事例発表社 **佐賀県 唐津市 波戸岬キャンプ場**
佐賀県 政策部 さがデザイン総括監 宮原耕史
株式会社 VILLAGE INC（ヴィレッジインク） 代表取締役 橋村 和徳

大学卒業後、テレビ局やITベンチャー勤務を経て、2009年に伊豆下田へ移住しアウトドアベンチャーを開始。2011年にVILLAGE INC.を設立。船でしか行けない「空間」と「非日常体験」で感動の時間を提供できる場を展開している。現在、直営・監修・プロデュースを含め、全国10箇所以上も行う。唐津市の波戸岬キャンプ場では、全面プロデュースの県立公園・キャンプ場の指定管理を受け運営している。

— 《少人数グループセッション》 —



チーム (6)

地域商社 事例発表社 **北海道 北海道宝島旅行社**
北海道 美瑛町政策調整課 課長補佐 佐竹 正範
株式会社北海道宝島旅行社 代表取締役 鈴木宏一郎

「宝の島「北海道」の価値を、みんなでカタチに」をミッションに、北海道内で複数の行政と連携しながら地域の特性・強みを生かした体験交流型の旅行商品づくりを行なっている。またインバウンド富裕層を対象とした北海道のオーダーメイドツアーの販売を行う地域密着型の旅行会社。北海道美瑛町も、この冬に協働で体験型観光商品づくりを行い販売。行政との連携のみならず地域市民を巻き込みながら、地域のキーパーソンの発掘やその支援などを行い、複数の自治体でDMOや地域商社的な活動の立ち上げ支援も行なっている。2018年に第2回日本サービス大賞「優秀賞」受賞し、経済産業省管轄の「地域未来牽引企業」としても選定されている。

チーム (7)

地域商社 事例発表社 **島根県 海士町 一般社団法人離島百貨店**
一般社団法人離島百貨店 事務局長 青山富寿生

山内道雄 元海士町長が発起人となり、全国の離島同士や、離島と離島ファンをつなぐためのプラットフォームを提供を目指す一般社団法人離島百貨店。全国の島料理や島の文化・歴史を発信するレストラン「離島キッチン」などの立ち上げにも携わった経験を活かし、離島地域の情報を一元的に発信するポータルサイトの開設や、有人離島を有する全国の自治体による共同出資で株式会社設立を目指している。

【ファシリテート協力の地域商社アンバサダー】

意食充株式会社 取締役会長 石井宏和 チーム (1)
株式会社萌す 代表取締役社長 後藤大輔 チーム (7)

《少人数グループセッション配置について》

